

市長と市民の対話集会

協働のまちづくりへ



松尾会場は1月31日、松尾総合支所で開催され61人が参加しました

1月30日から2月1日までの3日間、市内3会場で「市長と市民の対話集会(市政懇談会)」が行われました。対話集会には延べ126人(開催日順に安代地区35人、松尾地区61人、西根地区30人)が参加しました。田村正彦市長は対話集会の冒頭で「八幡平市を市民の皆さんと一緒になつてつくっていくため、建設的で活発な意見交換をしたい」とあいさつし、市のまちづくりや地域課題について参加者と意見を交わしました。今回は、対話集会の内容の一部を要約してお知らせします。

- 第1次産業の施策は、リンドウやホウレンソウなどの特産品をいかに底上げするか、第1次産業と第2次産業をいかに組み合わせるか、真剣に考えるため、専門の対策室を立ち上げることにしました。特別に農業振興を推進するプロジェクトチームを作って、国の制度改正と地域の特産品について、検討して
- 高収益を図るため、リンゴの栽培を図るべき。青森では歪化が行われている。
- 高付加価値の農産物については、ここにはリンドウやヤマブドウがあります。リンゴには日照が欠かせません。今ある農産物を大事にして育てていくことが必要です。
- 農プロジェクトを早く立ち

上げてほしい。市職員を最先端の施設に派遣し、人材育成をしてほしい。

◎市内には、認定農業者などプロフェッショナルな農家が増えていきます。知識も豊富で、地域で教えている人も多く、そのような人たちがいかに増やすかがプロジェクトの一つです。職員を専門機関に派遣してもなかなかそのようなプロにはなれません。職員は事業のコーディネーターが得意ですから、それに徹してもらおう方がよいと思います。

●八幡平市の豊かな大自然を生かし、全国にもっとアピールしてほしい。

◎「農と輝の大地」の輝は観光が柱です。合併でエリアが広くなり、下地ができました。4月に観光協会を再構築します。八幡平だけでなく、花巻や

平泉などと連携を取りながら、広域的な観光を進めたいと考えています。

●旧松尾鉱山を活用して観光に結びつけてほしい。

◎貴重な観光資源なので、考えていきたいと思えます。

●旧町村ごとのイベントがたくさんあるが、経費がかかる。見直してできないものか。

◎それぞれの地域で伝統と歴史を持って行っていきます。観光宣伝にもなるし、イベントに取り組む地域の人たちが団結する機会となり、地域づくりの力にもなっていると思えます。予算はかかりますが、決して無駄とは思いません。運営の仕方については見直ししなければなりません。

●国際大会を誘致して八幡平をスポーツのまちとしてPRしてほしい。

◎国際大会を誘致するには、今の施設ではアルペンは無理ノルディックにはラージヒルのジャンプ台が欠かせず、国に期待するしかありません。

●田山のスキージャンプ台をどのように考えていますか。

◎県で整備し、市で管理していますが、全国でも少ない貴重なもので、田山の振興になくてはならないものです。子どもたちが夏に練習する

ジャンプ台の整備を、県にお願いしているところです。

●企業誘致の取り組みは、◎企業誘致は個々の企業に当たってもなかなか難しい問題です。企業誘致は県を通じて情報収集をします。担当職員には、頻繁に県に行つて情報を集めるよう指示しています。一方で、海外に工場をシフトするケースが多いので、今ある企業がほかに行かないように、業績を上げている企業については工場を増設してもらえらるよう呼び掛けています。八幡平という非常に素晴らしい自然とロケーションを生かした、それにマッチした企業誘致が必要です。水や第1次産品を活用するような企業にこれからの、どんどんアタックしたいと思っています。

●松尾八幡平インターチェンジ付近には、企業を誘致する場所がたくさんあるが、誘致の予定は、◎今後、鬼清水グラウンドに1社決まる見込みです。

●少子化対策の考えは、◎結婚しない若者があまりにも多過ぎます。結婚しなければ子どもは生まれません。結婚する環境をつくるのが大切です。少子化は日本全体で大きな課題になっているので、

国の政策にも注目していきたいと思つています。

●市には市有地がたくさんあると思う。人口を増やすために、若い労働者をほかの地域から招いて、無料で土地を与えてはどうか。

◎市有地を無料で譲渡するのは、地方自治法上困難です。

●将来的に学校の統廃合を考えているか。◎学校では教科の学習はもちろん、たくさんの子どもの中で、社会性を学ぶことも大切です。人数が少ないと学級、学校として機能しなくなるほか、団体競技や合唱なども成立しない状況にあると、統廃合も考えなければならぬと思つています。既に、市内にはそのような学校があるので、先延ばしできない状態です。ただし、小規模学校のよさもあるので、地域の皆さんと話し合いの上に進めていかなければならないと感じています。

●市内に平館高校があるが、盛岡の学校に高い通学費を掛けて通っている。地元の高校に通えば保護者の負担も少なくなると思う。◎できるかどうかは分かりませんが、平館高校を市立高校にしたいと思つています。市の財政負担もそれほどありま

せんし、授業のカリキュラムも自由にできます。県立高校では、県の意向で統廃合されるなどの問題があります。

●市の教育目標はあるか。◎旧町村ごとに掲げた教育目標があります。また各学校が学校教育目標を定めています。まだ、市として統一した教育目標はありません。

●教育委員会では、各学校の授業の進み具合や、指導の内容などについてチェックすることはあるか。◎それぞれの学校の指導計画をもらつているので、ある程度の把握はしています。毎日授業を見ていくわけはありません。

●子どもたちが学校でパソコンを学べる環境を整えてほしい。◎パソコンは、これからの子どもたちにとって避けては通れないものです。インターネットに関しては、ほと



安代会場は1月30日、安代若者センターで開催され35人が参加しました



西根会場は2月1日、西根地区市民センターで開催され30人が参加しました

事件・事故が続いている。教育委員会としての防犯の取り組みを教えてください。

◎登下校の安全については、文部科学省の指示が県を通してありました。子どもたちを含めて、通学路の安全マップを、地域の皆さんを巻き込みながら作成するようにと指示がありました。それを各学校にお願いしているところです。

地域の子どもたちは地域で守る観点から、子どもたちを地域の行事に参加させ、地域の皆さんも参加し、互いに顔見知りになつてもらうのが一番の防犯対策だと思えます。

●街灯が足りないところが多い。どうしても歩かなければならない人もいます。まだ不足なところを点検して、順次整備してほしい。

◎順次整備していきます。具体的な場所があれば要望してください。

●スクールバスなどの民間委託は考えていないか。

◎市にバスが約20台ありますが、法律の問題があつて、ほかに利用できない規制があります。これを特区申請などで規制緩和してもらい、広く使えるようにできないか、国に掛け合えないか検討してもらっています。法律の壁はあるが、

なんとかチャレンジしてみたいと思います。

●県北バスは安比までは来ているが、細野のあたりは交通の便が悪い。ぜひ停留所を整備してもらって、荒屋新町まで延ばしてもらいたい。

◎県北バスが路線を延ばすのは難しいと思うので、総合交通体系を早く構築するよう指示しています。患者輸送車やスクールバス、スポーツ少年団など、さまざまな活用ができる交通体系を構築したいと考えています。西根地区の医療機関に、松尾や安代から通えるようにしたいです。

●大更駅の列車とバスの乗り継ぎがうまくいっていない。お客さんのことを考えたダイヤにしてみたい。

◎関係機関に確認します。

●西根バイパスの早期完成をお願いしたい。大更の国道は狭く通学路でもあり危険だ。

◎県でも、最重要路線の一つとして取り組んでいます。

●都市計画事業の見直しは。

◎昔の都市計画の図面がまだ生きていて、建物が建てられない状態になっているところがあります。もう一度都市計画を見直さないと、新しいまちづくりはできません。

●人口の多いところに予算が

多く配分されることは仕方がないことではないか。

◎政治の原点に返ることになります。全体の水準の底上げをすることが、政治の一つの課題です。人が集まるところに集中的に投資すれば、果たして地方はどうなるか考えなければなりません。都市は都市なり、地方は地方なりに発展していく必要があります。

●商店を経営しているが、合併で注文が減った。均衡ある発展という立場での考えは。

◎わたしは地元で発注してくださいとお願ひしています。少し高くても、地元で還元されるのだからと考えています。

●合併特例債を使い、10年間で整備するということが、どういう計画があるか。

◎合併特例債は基盤整備、合併で住民が利用する施設などに限定されています。福祉の充実という意見もあります。無駄と性格上できません。必要な整備を行いたいです。病院は特例債の対象外です。

●新庁舎は建設するの。

◎5年後をめどに建設するということで合併しました。

●市庁舎建設について、今の考えは。

◎一部の市民から無駄だとい

う意見がありますが、今なら国の約7割負担で建てられま

す。どうやったら、自分たちのお金を少なくして整備することができると考える必要があります。将来、市の10割負担で建てた方が子どもたちの負担になり、今作らないと後々、大きな負担を強いることになります。

●何十億円も掛けて市民に負担を掛けるような庁舎を建てる必要があるか。

◎庁舎を作ることで税が上がることはありません。当初の建設計画で予定している金額を掛ける必要はないと感じています。削減できるものは削減して、必要なものを必要額で作ることになります。庁舎建設には賛否両論あることは承知しています。先々に負担を掛けたくはありません。

●庁舎を建設し、公共施設が空くのであれば、地域の人が乳製品などを加工できる工場などを整備してほしい。

◎施設は有効に活用します。無駄な使い方はしません。西根庁舎もまだまだ使えます。

●自治公民館は、今までどおりの管理をしていけるのか。

◎西根の場合、旧町村単位の公民館は市で管理しています。集落の公民館は地元で管

●スクールバスの停留所で、立っている場所が狭くて危ない場所がある。

◎スクールバスの停留所については、至急確認します。危険な場所については、設置をお断りしています。小屋のようなものを整備するとなると、地権者もあるので、すぐにはできません。

●全国で小学生のいたましい場所がある。

◎ある地域を特別に自治を任せる特区などをつくつてもいいと思う。

◎自治組織を強化する必要があると思えます。小さな道路や水路の補修、除雪、地域の行事などを自治組織で行うようにしたいと考えています。自治組織に予算を配分し、地域で話し合つて解決してもらつたような組織を作れないか、盛んに検討しているところです。予算と権限を与える組織なので、簡単に作ることはできないと思えますが、じっくりと検討して進めていかなければならないと考えています。

●行財政改革の取り組みは。

◎行財政改革は、本年9月までにプログラム作りをしなければなりません。今、盛んに取り組んでいます。それも市民に問い掛けながら、意見を取り入れていく考えです。

●市にずっと住んでいる人には、市の良い点悪い点の比較が難しい。ほかから移り住んだ人たちの意見を参考に、市

としてどのようにすべきか考えることも必要ではないか。

◎地域審議会には、移り住んだ人を委員に入れていきます。

●ほかの市町村に先駆けた施策に取り組んでほしい。

◎これからの行政は自治体同士の競争になります。いかにアイデアを出して、ほかの市町村に負けないようにしなければなりません。魅力のないところには、若者は残りませんから。

●西根庁舎は、本庁と総合支所があり分かりにくい。松尾総合支所と分庁方式にしてはどうか。課や係の名前ももっと分かりやすくしてほしい。

◎行政組織の見直しに取り組んでいます。市として一番よ

い体制にしたいと考えています。

●市職員にも重度の障害者の総合的な相談ができるプロフェッショナルを育ててほしい。新設の福祉事務所に、そういう機能を発揮する体制を作してほしい。

◎市になつて福祉事務所を設置しました。福祉関係の事務でこのようなことが予想され

ていましたので、1年前から職員を県に派遣して勉強させています。専門的な知識を学んだ人を福祉事務所に配置する予定です。

●毎年、地区の総会案内を役所に出していますが、誰も来てくれない。地域にはたくさん要望がある。そういう声を聞いてほしい。

◎案内をいただいた地区の総

会には、市長、助役、部長などの幹部職員が出向いて、皆さんがどのようなことを考えているかを聞きながら、行政に生かしたいと思えます。

●市民の声を反映させる、市民委員会をつくつてはどうか。

◎法律で定める地域審議会を旧町村単位で設けました。委員には公募者もいます。それぞれ地域に合った施策を展開するため、審議会を設置したことは素晴らしい進歩だと思います。これから10年先の理想とする八幡平市を、どのように進めるか、それぞれの審議会での原案を審議してもらっているところです。

